

百歳のご長寿を祝って

老人の日を記念して今年度中に百歳を迎えられる白井ハルさん（早来大町）に、内閣総理大臣から祝状と記念品が贈られ、瀧町長より伝達されました。

白井さんは、大正4年に早来で生まれ育ち、現在も自宅でご家族に介助されながら、元気に過ごしていらつしやいます。耳は少し遠いとのことですが、ご飯が美味しいと食欲旺盛。贈られた記念品に「こんなに立派な物をもらえるなんて」と感激したご様子でした。



災害発生時の行動は

9月20日、町主催の災害図上訓練が追分公民館で実施され町民57名が参加。

訓練は、町内の住宅地図を用いて災害発生時の恐れがある場所や土地の特徴などの情報を共有したほか、災害を想定したイメージ訓練も行われ、個人や地域単位で出来る防災対策を考える機会となったようです。参加者からは「防災対策についてもっと考えないといけない」との声もあり、防災意識が高まった様子が伺えました。

地域の交通安全を願って

9月22日、安平建設協会によって安平地区に設置された、交通安全啓発モニュメントの点灯式が行われました。今回設置されたモニュメントは、昨年11月に安平町交通安全協会によって早来駅前設置されたものと同じく雪だるま型で、町内2基目のモニュメント。

モニュメントの設置について安平建設協会西村次郎会長は、「少しでも交通安全の啓発に役立てたら」と話されていきました。



（今月の1枚）

秋の味覚「ぶどう」

今月の1枚は、三友ブランドサーブス株式会社安平環境総合研究所で育てられている「ぶどう」です。収穫作業中の9月中旬に取材へ行ってきました。

どんなぶどうが？

案内された場所には無数の大きなビニールハウス。その中で、たくさんぶどうが育てられています。粒が大きく、色も様々。品種の多くは、本州など温暖な気候を好むものだから。

安平町で育つワケ

温暖な気候を好む品種が北の大地で育つには、温度管理が出来るハウス内という環境だけではなく、栽培方法にも特徴があるとか。それは、根域制限栽培という栽培方法を採用しているということ。

この方法は、根域を制限することで、水分量や栄養分、その土地の土壌等に左右されることなく安定した環境で栽培する方法です。

熟した大粒の实

ハウスの中には、芳醇な香りを放つ様々な品種のぶどうが大きな粒を実らせ、更に一粒一粒に艶があり、目を楽しませてくれました。

取材後には、収穫したてのぶどうをお土産としていただきました。溢れる果汁の強い甘みと香りが口中に広がり、とても美味しい秋の味覚を堪能することができました。

※現在、一般の方への販売・流通は行われていないとのこと。

